DENSO

8月 例会 個人 山 行 報 告 書

報告者	江頭	参 加 メンバー	ソロ
報告日	9月		

山 域	南八ヶ岳	山行日	09年08月29-30日
山 名	横岳 他		
山行目的	リハビリ		

配布先
集会:10
山行:1 リーダー
原紙:集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)

2.5万分の1地図:八ヶ岳西部(甲府)

コースタイム(天候:天気図記号)

08月29(土)曇り
10:30 美濃戸口
13:30 赤岳鉱泉

08月30(日)晴れ
03:00 起床
05:00 赤岳鉱泉発
06:30 硫黄岳
07:30 横岳
08:30 赤岳
09:30 行者小屋
10:00 赤岳鉱泉
11:00 赤岳鉱泉発
13:00 美濃戸口
(メモなしの記憶)

Kは八ヶ岳山荘で仕入れたひと缶を背負袋に忍ばせてひとり林道を詰めはじめた。季節は初秋へと変換したのか竜胆、蝦夷蝉がところ所で咲いたり、鳴いたりする。四輪が土埃を巻上げて森の静寂を乱して行く。美濃戸山荘の水槽に浮かぶ小金瓜で喉を潤して、北沢の林道を行程の半分ほど我慢して漸く山道となった。赤岳鉱泉に天幕代を納め、早めに床に就くと雨が降り出したようだ。

起床すれば雨は止んでおり、辣麺すするがあたりが暗すぎるのでもう一度寝る。気がつくと薄明かりとなっており、空身になって出発する。沢を渡って尾根にかかる。適度な傾斜で登りやすい。樅の丈がだんだん低くなり岳樺の疎林となるはいつもの構成だ。赤岩ノ頭は朝霧で視界が良くないがKは道標に従い、硫黄岳方面へ右折した。立派な円錘塚を目印に横岳方面へすすむ、まるで霧濃度と同調したかの様に一つすすむともう一つ先が現れる。これを、『ほしい円錘塚に手が届く』と言うのかKは知らない。

硫黄岳山荘手前に至り、東方低仰角に薄い日光が見えたと思うと、西方、霧の映写幕にKの影が虹に似た光の輪と共に示された。と同時に光に暖められた霧は散り、光と影の壮観は瞬く間に消え、小屋立ちと思われる一行が横岳の尾根に取り付いている絵が展開する。しばらく空中散歩を楽しんで、赤岳山頂から雲海に浮かぶ富士山を遠望したKは天幕まで早く戻ろうと赤い涎掛けのお地蔵さんに軽く会釈して尾根を下る。行者小屋から赤岳展望荘の風車が小さく小さく見えた。

確認

確認

作成 江 '09.07.27 頭

＜ﾘｰﾀﾞｰ所見＞

天候に恵まれ、珍しい現象も見れた。ありがとうございました。